

でんち

一般電池工業会
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2022年1月

年頭挨拶会を開催

一般社団法人電池工業会は2022年1月7日(金)、機会振興会館を拠点にWebで「2022年度年頭挨拶会」を開催した。その後、同会場で「2021年度優良従業員表彰」を実施した。なお、新年賀詞交換会は昨年引き続き中止とした。

一般社団法人工業会 村尾修会長挨拶

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、今年は久しぶりに穏やかなお正月を迎えられたのではないのでしょうか。僭越ではありますが、2022年の新春を迎えるにあたり、わたくしより一言ご挨拶を申し上げます。

日頃より電池業界のご理解と発展に、ご厚情をいただいております関係各位に対しまして、心より御礼申し上げます。

2021年は新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、世の中は停滞ムード一色でしたが、ここきてワクチン接種率の上昇や厳しい行動制限の結果、ようやく日常生活が戻りつつあります。ただここきて、オミクロン株の出現による感染拡大の第六波襲来のリスクが高まっており、予断を許さない状況です。その一方で、ウイズコロナの中、世界中の経済活動が再開するとともに大きなリスクが顕在化し始めています。資源価格の上昇やサプライチェーンの混乱、そして、それらに起因した世界的な物価上昇がじわじわと経済活動に影響を与え始めています。会員の皆さまにおかれましてもご心配のことと思います。

電池関連の事業環境を見てみますと、カーボンニュートラルに向けた、再生可能エネルギーの利用拡大、世界的な自動車の電動化などの高まりがあり、電池業界も大きくこの影響を受けます。そこで我が国でも、国からの支援として電池関係において、次世代バッテリー開発にグリーン基金から1,205億円を予算化頂きました。

また、12月の国会における補正予算審議により、蓄電池の



国内生産基盤確保のため、先端的な生産技術の導入・開発への補助金支援：1,000億円の予算化も決定頂きました。

これにつきましては、21年7月から経済産業省様で新設されました電池産業室様からの多大なご支援に感謝申し上げます。

電池メーカーとして、これらのご支援に応えて行く形となりますが、まずは現在の電池工業会の活動について、簡単に述べさせていただきます。

電池工業会では、例年期末に経済産業省様へ政策提言を実施しておりましたが、本年度は蓄電池産業戦略検討官民協議会が開かれ、そこで弊社普及促進委員会から、蓄電池の普及促進に関する課題提起を行いました。

また、2020年秋から駆動用車載LIB協議会を立ち上げ、標準化、法規対応、ならびにリユース/リサイクルにも取り組んで

おります。

併せて、2021 年春に設立された電池サプライチェーン協議会とも連携しております。

岸田新政権では新型コロナ対応は当然のこととして、「成長と分配の好循環」と「コロナ後の新しい社会の開拓」をコンセプトに「新しい資本主義を実現する」を目標に掲げています。政府の今後の施策に期待するところではありますが、コロナ対策により肥大化した財政赤字の削減という重い課題も忘れてはならないと思います。そして、AI、IoT、DX 等のテクノロジーの融合により、社会は集中型から分散型に変化がさらに加速していくことでしょう。この変化の波に乗り遅れることなくサステナブルな成長を実現したいものです。

2022 年の干支は「壬寅（みずのえ・とら）」です。この干支には春が来て草木が生じる状態という意味があり、これが転じて「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長する」ということを表すとされています。

2022 年はウイズコロナのなか、ニューノーマル（新常态）での新しい成長の礎を築くための年と言えるのではないのでしょうか。

また、「虎は千里行って千里還る」とも言います。勢いが盛んなことの例えであります。是非ともこの勢いにあやかりたいと思います。

結びに、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 電池産業室 武尾伸隆室長挨拶



皆様方あけましておめでとうございます。

また、電池工業会にご参加の皆様におかれましては、日頃より経済産業省の運営にご協力頂きまして誠にありがとうございます。コロナ禍の影響で直接皆様とお会いできず大変残念ではございますが、お時間を頂きましたのでご挨拶と最近の動向につき

まして一言ご報告させて頂きたいと思います。

電池産業室は昨年 7 月にできちようど半年が経ちましたが、大変動きのある半年だったと思います。世界全体を見ますとコロナ禍の影響で経済が混乱した大変な時期でしたが、一方でそういった状況の中でも社会のグリーン化に向けた動きは衰えを見せておりません。このような動きの中で蓄電池においては世界的に様々な企業が投資計画を立案しており、外国政府も国内でのバリューチェーンの構築に向けた政策強化など様々なことに力をいれています。

一方日本国内においても政府内でも蓄電池の重要性の認識が高まっております。その観点で直近の動向について一言ご紹介をさせて頂きたいと思います。

先程も村尾会長からご紹介ありましたが、まず最初に蓄電池産業戦略検討官民協議会についてです。今伸びていく蓄電池市場の中で我が国産業が如何に競争力を取り戻すかについて国としての戦略を検討するという観点で、上流資源から生産基盤強化、リサイクル・リユースを含めた包括的な内容について検討を行っております。第一回の会議を 11 月に開催し、第二回をもう間もなく今月末か来月位に開催して、ゴールデンウィーク前後までに 3-4 回官民協議会を開催しアウトプットをまとめ、来年度以降の施策に反映していきたいと思っております。会員企業、多くの関係企業の方にも参加いただいて議論しておりますので、皆様方の引き続きのご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

次に、グリーンイノベーション基金についてです。これは昨年度の補正で二兆円を確保した予算ですが、この中で蓄電池についても重要技術の一つとして位置づけをしていました。その予算配分が電池だけで約 1200 億円、モータも含めると 1500 億円が決まっており、高性能電池、材料の研究開発、またはリサイクル関連技術開発で昨年からの公募を開始しており、ちようど昨日公募を締め切ったところです。大変多くの企業の方々から応募をいただきありがとうございました。結果がわかり次第 NEDO を通してご報告を致したいと思っております。

補正予算についてですが、昨年末に臨時国会で成立した経済対策パッケージの中で、蓄電池についてもよろもろ関係予算について盛り込んでおります。

蓄電池の国内製造基盤確保に向けた 1000 億円、蓄電池の試験・認証基盤の拠点整備に 138.3 億円、ユーザー側の導入支援ということで系統用蓄電池等導入支援に 130 億円、電気自動車・燃料電池自動車等の購入補助に 250 億円となっております。

最初の 1000 億円の予算ですが、昨年末電池工業会を通じて説明会を行いました。補助要件として技術的先進性等がご

ざいますが、これを満たすものについては、設備投資をする場合 150 億円・最大 1/3 の補助率になります。関係する設備側の研究開発、生産プロセスに関する研究開発についても 1/2 の補助がでるというスキームになっています。今、事務局を公募しており今年度内には公募を開始できるかと思しますので、ご関心ある方は是非応募いただければと思います。

基盤整備という観点では、NITE（製品評価技術基盤機構）におきまして、NLAB（製品評価技術基盤機構）に電池の安全性等を評価する多目的実験棟がありますが、大変稼働率が高く、拡張するために追加予算 60 億円で新しい棟を増設することになっています。

あとはユーザー側の市場の拡大に向けた導入支援になります。最初が定置用、系統用蓄電池の導入支援です。北海道、九州等局所的に再エネの導入が高まっている地域においては、再エネをこれ以上入れるには、合わせて蓄電池の導入が不可欠となっています。こういった地域を中心に、アグリゲーター等の民間事業者がこの蓄電池を使った電池調整力の提供を行う事業者に対して、導入補助金を行うということです。蓄電池と水電解装置になりますが、蓄電池においては最大 1/2 の補助が出ると

いうことです。

もう一つ電池の大きなマーケットという観点では、自動車であり、クリーンエネルギー自動車・インフラ導入促進補助金、購入補助金です。こちら ×EV 補助金で、既存の予算でもやっていたことですが、その補助の割合を今回の補正予算を活用して引き上げます。条件付きですが、最大で EV の場合は 80 万円まで、これは諸外国に比べても引けを取らない金額になっていると思いますので、EV 等の普及はより加速することを期待しております。以上が補正予算の説明でございます。

冒頭で申し上げた 官民協議会はこれからゴールデンウィークにかけてアウトプットの作成に向けて検討を加速させていきたいと思っております。その過程で関連する企業の皆様の情報や、あるいはお考え、方針等が極めて重要となっております。個別には企業の方々とコミュニケーションとらせていただいております。また、工業会の皆様とも意見交換をさせていただいておりますが、官民一体となって日本の電池産業が競争力をより強化できるように引き続きご協力ご支援をお願いし、よろしくお願いたします。

最後に、皆様のご健勝とご健康を祈願させていただきまして私の挨拶とかえさせていただきます

優良従業員表彰

年頭挨拶会に続いて、2021 年度優良従業員の表彰式が行われ、村尾会長より各受賞者に賞状と記念品が授与された。

受賞者（順不同、敬称略）

富田 誠一（エナジーウィズ株式会社）	尾崎 健太郎（エナックス株式会社）
藤城 泰治（FDK株式会社）	山田 善司（FDK株式会社）
原 富太郎（エリーパワー株式会社）	竹山 正孝（株式会社インビジョン AESC ジャパン）
小林 則人（株式会社 GS コアサ）	和佐田 尚正（株式会社 GS コアサ）
藤田 勉（セイコーインスツル株式会社）	小倉 幸弘（株式会社 東芝）
佐藤 晃久（東芝電池株式会社）	澤 守彦（パナソニック株式会社）
西端 茂樹（パナソニック株式会社）	吉家 紀昭（古河電池株式会社）
小西 二郎（マクセル株式会社）	佐藤 智明（株式会社村田製作所）
中島 尚幸（株式会社村田製作所）	

表彰式後、長野副会長から閉会の挨拶を行い、その後同会場で記念撮影を行った。

新年挨拶会、優良従業員表彰には、会場 38 名、オンライン参加 66 名、合計 104 名のご参加をいただいた。

優良従業員表彰式に出席できなかった、富田誠一様（エナジーウィズ株式会社）、尾崎健太郎様（エナックス株式会社）、藤田勉様（セイコーインスツル株式会社）には個社にて表彰を行っていただきました。



第 101 回二次電池第 2 部会を開催

2021 年 12 月 3 日(金)、一般社団法人電池工業会は第 101 回二次電池第 2 部会を Web 会議方式で開催した。冒頭で BAJ 競争法コンプライアンスルールを遵守することを確認の後、黒葛原部会長、清水専務理事から挨拶があり、続いて各委員会の代表から 2021 年度のこれまでの活動報告がなされた。

1. 黒葛原部会長挨拶

来年の回復が期待されるがまだまだ不透明な状況の中、WEB 会議も定着し活発な活動に感謝する。3 月まで計画通り進めていただきたい。

2. 清水専務理事挨拶

事業計画の時期となった。今期の活動に漏れがないか来期計画をどう進めるかしっかりと検討をお願いします。また国と連携した複数の活動が始まっており、蓄電池戦略が検討される中、事業支援の予算化も予定されている。会員会社の皆様と協力して進めていきたい。

3. 各委員会からの報告

各委員会より資料に沿って活動内容の説明がなされた。

◆技術委員会

報告資料よりトピックスを抜粋して報告がなされた。

1) 各分科会等報告

<リチウム二次分科会>

<LIB 安全性技術 WG>

<据置 LIB 分科会>

<非駆動用車載 LIB 分科会>

<ニカド・ニッケル水素分科会>

<産業用ニッケル水素分科会>

<PSE-WG>

<蓄電システム WG>

<環境規格分科会>

<リユース規格 WG>

<CFP 規格分科会>

2) 技術委員会対応の活動

① 二次電池用語一覧表更新

IEC 63057 Ed.1 (非駆動用安全規格) の規格化が完了、battery、BMS など用語を追加。

② JIS C 9335-1 (家電製品の安全性の通則) 原案作成委員会 対応

国際規格の翻訳を実施した際に提示された課題について、電池に関する技術的審議を実施し、結果国際規格通りとすることした。

③ ISO/TC333 (リチウム資源) 国内委員会対応 (会議 2 回)

SBP に反対票を投じた上で、コメント送付。NWIP 6 件についていずれも反対。残り 4 件の NWIP について意見照会中。

3) 技術委員会審議事項

① SBA G1103 (携帯電子機器の LIB 安全利用) の廃止について

技術委員会で審議照査を実施。本件、審議事項として提案する。

② TC120 IEC62933-5-3(リユース電池 ESS 安全) 対応

相互理解のための体制づくりが必要であることを TC120 国内委員会に回答することを確認した。

◆国際電池規格委員会

カテゴリー別の進捗報告がなされた。ここでは特記案件のみ記載する。

・IEC 62133-2(民生 LIB 安全)は ED.2 の CD 案完成。ED2 は変更点が多く審議は長期化する見込み。

■ISO/TC333 (リチウム資源) 国際会議報告

・電池材料を扱う WG 設置案は否決された。一方でサンプリング、分析法 WG が新たに設定され、電池材料の仕様標準化を行うこともありうるとの記載もあり、引き続き監視が必要。

◆国際電池輸送委員会

1) 活動内容

【国際電池輸送委員会】

(1) SAE G-27 WEB 会議

AS6413/1 及び AS6413/2 ドラフトの投票が行われ、賛成 14 票、反対 22 票。今後、コメントをまとめて議論を行い、改訂版が作成される予定。

(2) ICAO 危険物パネル DGP/28 会議

リチウム電池の航空輸送に大きな影響がある内容は、Section II の廃止(Class9 危険物の要件から除外されるリチウム電池の単体輸送の廃止)、機器組込みリチウム電池の 1.2m 落下試験の適用、リチウムイオン電池

全般の輸送時の SOC を 30%以下の最低限 SOC とする、提案。Section II の廃止以外の提案については、継続審議となった。

【小型全固体 LIB 輸送 WG】

(1) 小型全固体 LIB の輸送規制緩和の可能性を検討
リチウム電池マークのマーキングを除外する BAJ 提案について、海事検定協会および危険物 UN 対応部会と検討した結果、今回の 59 回国連会議への提案は取りやめ、関係者間で十分な検討を行い、60 回国連会議へあらためて提案をすることで合意。

◆普及促進委員会

【普及促進委員会】

・2021 年度の政府への提言：3 月に提言書を提出する予定であったが、加速して 11 月 18 日にエッセンスを『蓄電池産業戦略検討官民協議会』に提言した。本部会では提言書案について審議いただきたい。(→議題 8「審議事項」)

【法規WG】

・「危険物施設におけるスマート保安等の実現に向けた検討会」への対応：「一時間遮炎性能の本番試験」を、1 月 18 日 建材試験センター (埼玉県草加市)にて実施予定。

◆駆動用車載 LIB 委員会

1. 活動内容、対応規格

・駆動用車載 LIB 委員会とリユース規格分科会の合同会議：SC21A WG6 および PT63338 の Expert に対し、コメント案と反映 Working Draft を送付した。
・JARI 電池標準化 WG リユース TG：IEC 63330 の適用範囲と IEC 62933 蓄電システムとの境界の明確化を図るべく審議中。
・JARI 電池リユースマネジメントシステム標準化 WG：この JIS 規格案の ISO への提案を目指して審議中。
・TC120 (蓄電システム) WG4、WG5：IEC 62933-5-3 の CD に、リユース規格分科会から 13 件、据置 LIB 分科会から 3 件のコメントを TC120 国内委員会に提出した。

◆PL 委員会

1. 活動報告

(1)消費者庁の事故情報収集

モバイルバッテリーは、2019 年以降は 11~20 件/四半期で推移。スマートフォンは、2017 年 7-9 月をピークに減少傾向。ノートパソコンは、2021 年は 9 月末時点で 0

件。アシスト自転車は、2021 年の第 3 四半期 (7-9 月) に件数が増加。充電式電気掃除機は、2020 年以降は減少傾向だったが 2021 年 7-9 月は増加傾向。ポータブル電源【暫定】は、2021 年は 9 月末時点で前年を上回り増加傾向。

◆再資源化委員会

1. 活動報告

- 1.1 充電式電池の回収・再資源化の政府・業界対応
10 月に、「小型充電式電池の識別表示ガイドライン 第 8 版」の英訳版を発行した。
- 1.2 電池使用機器及び充電式電池の電池回収表示・記載及び電池回収の実態調査
「ポータブル電源」15 機種種の調査を行い、結果を別紙にて報告。
- 1.3 BAJ への問合せの多い表示・回収項目への対策検討
消費者向け啓発文の掲載について協議中。来年 2 月に掲載予定。

◆広報総合委員会

1. 活動報告

(1) 展示会・イベント活動

- ①でんちフェスタ：今年度の開催は見送ることを決定。
- ②手づくり乾電池教室：今年度は最大 19 件の開催見込。
- ③エネルギー体験教室：11 月に 1 件を実施。

(2) キャンペーン・PR 活動

- ①乳幼児の誤飲事故防止：都営新宿線、大阪モノレール、ひよこクラブ
- ②小型充電式電池の回収・リサイクル：名古屋地下鉄 福岡地下鉄、サンデー毎日
- ③自動車用バッテリーの定期点検・早めの交換：自動車学校 配布雑誌、農村ニュース、油業奉仕新聞、スポーツニッポン
- ④啓発キャンペーン
・「でんち川柳コンテスト」応募数 954 件 (10 月末時)
・「電池は正しく使いましょうキャンペーンクイズ」：電池月間キャンペーン

(3) 情報発信

- ① 機関紙「でんち」：毎月発行
- ② We LOVE DENCHI、イベント用パネル、イベント用チラシ：更新・改訂を随時実施
- ③ BAJ の HP：更新・改訂、各委員会要請により対応

◆国際環境規制総合委員会

- 1.2 国際電池リサイクル会議 (ICBR) にオンライン登録し

て資料を入手。

1.3 EU の全 PFAS 規制検討に関するパブコメに BAJ と
して意見提出。

1.4 地域別環境情報

(1) 欧州

・欧州議会環境委員会が電池規則案を巡る報告書草案
を公開

(2) 北米

・米国メイン州、すべての PFAS 含有製品の使用を規制
する法律が成立

(3) アジア

・フィリピン、電池、スイッチ、蛍光灯の水銀含有量規制案
を WTO/TBT 通報

(4) 中南米

・アルゼンチン、水銀、同混合物、化合物及び水銀添加
製品の管理に関する規則を公布

4. JBRC 報告

I. 会員状況

12月現在：378 法人

II. 回収状況（2021 年度 2Q 実績）

- ① 回収量：前年比 108.1%
- ② 正極系リチウムイオン電池回収量推移：Co 系
以外構成比 66%
- ③ 再資源化率実績：ニカド 76%、ニッケル水素
77%、リチウムイオン 53%

III. 具体的施策実施方針

1. 小型充電式電池の安全な回収・再資源化処理
の強化

(1) 安全回収強化：「J B R C だより 10 月号」
を全排出者へ配布

(2) 排出者登録数：480 自治体 登録

(3) 広報宣伝活動

① 展示会（2ヶ所中止、1ヶ所完了、1ヶ所
予定）

② 出前授業（6ヶ所中止、1ヶ所完了、2ヶ所
予定）

IV. その他

① コードレス掃除機ニューズリリース対応：排出協
力店、排出事業者へ注意喚起

② 「資源有効利用促進法の在り方に関する検討会」：
第 1 回 11 月 12 日オブザーバ参加

② 直近の回収状況（10 月度回収実績）：前年同
月比 86%

5. その他審議事項

1) SBA G1103（携帯電子機器の LIB 安全利用の手
引き）の廃止について

→ 廃止することが承認された。

2) 不燃性能試験の実施について（追加案件）

→ 本試験の実施が承認された。

3) 2021 年度版「蓄電池の普及促進に関する提言」(案)
について

→ 本案にて進めることが承認された。

6. 事務局報告

1) 2021 年度日程

第 102 回：2022 年 2 月 15 日（火）13:30～16:30
WEB 会議



2021年12月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	9日(木)	広報総合委員会	2021年事業計画遂行状況と2022年度事業計画案、各種デザイン検討、他
	16日(木)	国際環境規制総合委員会	地域別アップデート、冊子第12版の検討
	21日(火)	新種電池研究会	新種電池に関する情報交換、講演会要旨検討
	22日(水)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	神奈川県、沖縄県会場の修了考査判定の審議
二次電池部会	10日(金)	電気車鉛分科会	SBA 電気車用鉛蓄電池の技術指針改訂審議、他
	13日(月)	据置アルカリ分科会	SBA 据置ニッケル・カドミウム蓄電池の保守・取扱い指針改訂審議
	13日(月)	自動車鉛分科会	JIS D5302改正審議
	14日(火)	据置鉛分科会	JIS C8704-1改正審議
	15日(水)	自動車電池技術サービス分科会	TS-004冊子改定審議
	17日(金)	用語分科会	SBA 規格票作成指針改訂審議
	23日(木)	産物リサイクル委員会、広域認定分科会	広域認定状況確認、広域に関する基本契約案見直し審議、他
二次電池第2部会	1日(水)	CFP国際会議(Web)	IEC規格のCDについて検討審議
	3日(金)	二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議
	9日(木)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	9日(木)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応
	10日(金)	国際電池規格委員会	IEC ANSI規格の審議対応
	13日(月)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応
	14日(火)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応
	14日(火)	リチウム二次分科会	電安法別表9検討
	16日(木)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	16日(木)	駆動用車載LIB委員会・リユース規格分科会合会議	車載LIBのリユースに関する検討。リユースガイドライン規格の検討
	20日(月)	PSE WG	電案法に関わる審議
	21日(火)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
	21日(火)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	22日(水)	普及促進委員会	蓄電池システムの普及促進検討
一次電池部会	3日(金)	技術委員会	各委員会・分科会の活動報告審議、他
	8日(水)	コイン形リチウム分科会	ISO TC114 小グループ会議対応審議
	10日(金)	一次電池部会	各委員会からの報告および審議

10 月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2021年 10月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	383,341	85,951	100%	94%	3,840,212	875,360	117%	118%
一次電池計	220,487	8,569	93%	92%	2,364,347	83,193	114%	111%
酸化銀電池	54,791	1,139	149%	162%	578,868	11,286	138%	156%
アルカリ乾電池計	89,644	3,929	72%	70%	1,036,076	39,644	102%	96%
単 三	-	-	-	-	-	-	-	-
単 四	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	19,940	1,083	68%	57%	226,694	11,074	111%	90%
リチウム電池	76,052	3,501	101%	116%	749,403	32,263	118%	124%
二次電池計	162,854	77,382	112%	95%	1,475,865	792,167	123%	119%
鉛電池計	2,325	14,941	85%	89%	23,967	149,754	102%	101%
自動車用	1,713	9,266	80%	82%	18,032	95,683	100%	101%
その他の鉛蓄電池	612	5,675	104%	103%	5,935	54,071	106%	99%
アルカリ蓄電池計	38,792	17,579	88%	93%	418,767	185,073	106%	120%
ニッケル水素	36,138	16,970	87%	92%	392,182	179,361	107%	120%
その他のアルカリ蓄電池	2,654	609	100%	120%	26,585	5,712	95%	102%
リチウムイオン蓄電池計	121,737	44,862	124%	97%	1,033,131	457,340	133%	126%
車載用	89,565	32,579	137%	96%	715,811	338,670	150%	131%
その他	32,172	12,283	99%	101%	317,320	118,670	106%	112%

10 月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2021年 10月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸出）	262,444	62,808	137%	111%	2,236,063	532,779	134%	129%
一次電池計	108,272	3,345	121%	102%	1,102,800	33,295	138%	147%
マンガン	419	17	-	-	1,803	88	-	-
アルカリ	13,663	207	122%	122%	147,457	2,174	163%	145%
酸化銀	45,383	811	173%	174%	461,691	7,833	152%	171%
リチウム	48,807	1,876	93%	117%	491,844	17,611	121%	131%
空気亜鉛	0	0	-	-	0	1	0%	9%
その他の一次	0	434	33%	43%	5	5,589	141%	182%
二次電池計	154,172	59,462	151%	112%	1,133,263	499,484	131%	128%
鉛蓄電池	143	1,067	82%	94%	1,547	10,802	118%	120%
ニカド	465	81	55%	59%	5,022	1,040	64%	96%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	6	1100%	746%
ニッケル水素	12,847	9,697	95%	96%	145,499	88,864	118%	115%
リチウムイオン	126,507	38,537	164%	129%	865,490	302,021	136%	143%
その他の二次	14,210	10,080	134%	84%	115,705	96,750	123%	105%
全電池合計（輸入）	118,637	24,647	77%	130%	1,232,543	219,183	93%	123%
一次電池計	110,396	1,786	75%	82%	1,152,839	17,785	93%	89%
マンガン	11,461	139	93%	109%	117,491	1,227	90%	89%
アルカリボタン	2,018	14	55%	50%	18,611	137	50%	49%
アルカリその他	85,602	1,175	72%	80%	860,231	10,776	95%	96%
酸化銀	84	2	47%	38%	1,701	62	101%	107%
リチウム	7,548	377	73%	79%	105,706	4,533	95%	87%
空気亜鉛	3,676	68	109%	84%	49,055	878	90%	77%
その他の一次	6	11	224%	160%	44	173	94%	28%
二次電池計	8,242	22,861	122%	136%	79,704	201,398	105%	127%
鉛蓄電池	784	4,132	110%	127%	7,686	37,527	112%	118%
ニカド	9	126	66%	108%	574	1,842	119%	160%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	2	-	-
ニッケル水素	2,344	473	106%	121%	20,924	4,109	104%	111%
リチウムイオン	5,071	17,018	133%	138%	50,078	145,842	105%	128%
その他の二次	35	1,112	149%	145%	443	12,075	82%	139%